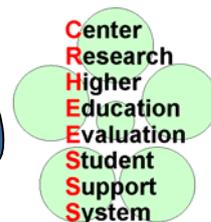


週刊センターニュース No.158



第158号(2007年5月14日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第149回共同学習会のご案内

日時: 2007年5月17日(木) 16時30分~18時

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階会議室

報告者: 渡辺達雄(大学教育開発・支援センター)

テーマ 「公立大学の学生支援」

趣旨: 研究課題名「大学評価指標における学生支援の位置づけに関する実証的研究」(基盤(c)課題番号18611004、研究代表者:青野 透)の調査研究の一環として訪問調査した、福井県立大学、公立はこだて未来大学の学生支援について紹介し、学生支援を大学としてどう位置付けるべきかについて議論する。

韓国の学生支援の状況

高等教育の先進国、お手本(理想)として、アメリカを取り上げるのが一般的であり、現在も依然その状況に変化はなく、最近では加えてオーストラリアの動向が注目されているところである。しかし、国土が広く州ごとにみても全く異なり統一したイメージとして捉えきれぬものでなかったり、あるいは人口規模が小さくまた教育を国家の重要な輸出産業として様々な手を講じるなど、参照はできても、そこでの(新たな)政策・手法をそのまま移転するには無理が生じる場合が多い。一方、高等教育の発展過程や特徴が比較的共通して、人的資源の確保という点でも強力なライバルとなる韓国の状況を把握することは、様々な意味で有益な情報となりうる。隣国の高等教育については、これまで政府の政策、大学評価、職員資質開発(SD)といったテーマで現状や問題点について、ニュースや共同学習会で簡単に触れてきたが、今回は韓国の学生支援について少し触れてみたい。

80年代以降、政府が入学定員の緩和路線を取り、90年代以降も高等教育政策において規制を弱めてきたこともあり、膨張し続ける高等教育要求に応えてきた「私立優位型」という構造をもつ。同時に、学生の教育費負担の増大と大学財政の逼迫、大学教育のソフト・ハード両面における質の低下、大卒者の就職難問題などといった問題構造を恒常的に抱えることになった、また私立大学、なかでも地方所在の大学は、学部ないし大学全体で学生定員が数年にわたり充たないところが増加し、危機的状況にあるといえる。こうした状況にあって、いわゆる学生・顧客中心(主義)の高等教育サービスに対する要求や意識が、大学関係者の間で、相当に高まっており、学生支援に対する注目度も高まってきている。で企業・地域・社会から投げかけられる要求に応え、アカウンタビリティを果たすよう迫られて、学生・学習支援や就職指導の充実、TLO・産学連携など、これまで放置されてきた領域や、新たに必要性が認識された業務の開発が必要とされている。

学生福祉及び学生支援業務は、韓国の大学では、学生処(部)を中心に学生福祉に関係する部署が担当している。各大学によって、推進している業務は様々であり、就業情報、奨学金、相談などがある。以下、いくつかの項目ごとに、現況と問題点をみていきたい。

1. 就職情報

総じて、大学内に設置されている就業支援センター等を中心とした就職支援業務の実施は、期待どおりに機能しているとは言い難いようである。就職情報の提供や相談は高度の専門性を求められるものの一つであり、そうした専門的な訓練を受けた相談員の設置はいうに及ばず、面接・試験準備に対する戦略的なバックアップ、さらに進んで、就職情報会社あるいは実際の職場に赴き自分の大学・学生について説明（売り込み）を行い、能動的に就職対策をしることができるような制度的な仕組みが整えられなければならない状況にある。また学内の様々な制約条件を考慮し、就職専門会社に業務をアウトソーシングすることも、一つの方向として考慮されている。

2. 奨学金

就学にさいし、経済的困難を有する学生について、保護者（学父兄）の学費負担を軽くするための制度として、韓国にあっても校内奨学金、政府が支援する融資制度、さらに外部（機関・団体）奨学金の3タイプがある。しかし、一般的に奨学金の規模（額）が、学費全体のそれに比べ相当に小さい場合が多く、その金額を増額して、名実ともに機能を発揮するように、例えば国費奨学金を増額し、大学内奨学金もそれに相応する形で、増やしていくよう政策的に誘導する必要がある。またそのために、専門的な募金機構（部署）の設置が必至といえる（1990年代を通じ、対外協力業務を担当する部署が新設されてきたが、専門的な人材が不足するか又は不在なために、実効性を有しえなかったとみられている）

3. 学生相談

大学の規模が拡大するにつれ、教師 - 学生間の人間的な結びつきが徐々に弱まり、隔たりを感じる状況がある一方、個人の進路、心理的障害、セクハラなどの問題に係る個人相談に対する需要がかなり高まってきている。それにも関わらず、専門的訓練を受けた専門相談員数が依然不足しており、相談を受け入れる空間（施設）についても不足しているというのが実情のようである。相談員の増員はもちろん、いつでも相談を受け入れる常設の相談機構（施設）の設置が要望される。

またとくに、韓国で近年実施されている学生募集単位の広域化、系列別（専門分野別）募集に関わって、新入生を2,3年次で各専攻にふるい分ける過程で、（将来の）進路と関連する学生個々人の専攻決定にさいして、なんらかの支援（アドバイス）が必要とされるが、適切な相談員がいない場合が大部分のようである。従って、こうした相談に携わる、（専門的な）進学指導員の活用も念頭においてる大学もある。

（文責：評価システム研究部門 渡辺達雄）

角間ランチョンセミナーのご案内

5月は、「国際交流月間」として、様々な話題のもと留学生や日本語・日本文化研修生のご報告や、留学生センター等の教職員によるミニ留学説明会など、ためになる情報をお届けいたします。国際交流・異文化理解に関心をお持ちの方、是非ご参加下さい。詳しいスケジュールは、http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/luncheonhp/schedule.htm をご覧下さい。

センターからのお願い

センターニュースで取り上げてほしいテーマを募集します。また、センターニュースを読んだのご感想や、当センターへのご要望などをメールにてお寄せください。

さらにセンターでは、共同学習会の話題提供、ランチョンセミナー担当も随時募集しておりますのでご連絡ください。info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp までお願いいたします。